

自 己 評 価 表

愛媛県立松山東高等学校 No. 1

学校番号 (2 1)

教育方針	<p>1 高い知性と豊かな創造性を身に付け、新しい文化の発展に貢献する人間を育成する。</p> <p>2 高い道義心と公正な判断力を身に付け、人類の福祉増進に寄与する人間を育成する。</p> <p>3 たくましい気力・体力を身に付け、平和な国家社会の実現に努力する人間を育成する。</p>	重点目標	<p>「グローバル社会に対応する全人教育の実践」</p> <p>ー 輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、人間的魅力のあるグローバルリーダーの育成 ー</p> <p>○感動ある授業と充実した個別指導により、確かな学力と高い知性を育てます。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びを実現するとともに、国際的素養を育みます。</p> <p>○人権意識と協同の精神に根ざした、安心・安全な学校づくりを推進します。</p> <p>○伝統の継承と創造、部活動の充実を通して、気力・体力・人間性の一層の向上を図ります。</p> <p>○家庭や地域と連携し、開かれた、魅力ある学校づくりと信頼される学校運営を行います。</p>		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	教育目標達成のための実践	本校の教育目標及び地域における役割を全教職員が理解し、その実現に向けて創意工夫しながら実践に励む。教育業務の自己評価ポイント平均8.5以上を目指す。	A	毎月の運営委員会と職員会議において示達した結果、重点努力目標の共通理解が図られ、ほぼ目標を達成することができた。 (教職員の自己評価ポイント8.7)	生徒、保護者、地域の期待に応え、魅力ある学校づくりと地域貢献に努める。また充実した教育活動や先進的な授業法の研究に取り組み、県立高校のオピニオンリーダーとしての役割を果たす。
	円滑な組織運営	業務の精選と情報の共有化を図り、連携協力しながら自己の役割を確実に果たす。教育業務の自己評価ポイント平均8.5以上を目指す。	B	目標に対する共通理解と協力態勢ができており、円滑に校務を遂行することができた。 (教職員の自己評価ポイント8.8)	校務分掌における業務の精選と円滑な会議運営を図るとともに、校務支援システムの効果的な運用により、さらなる省力化を推進する。
	事務の適切な執行	保護者・地域の信頼が得られるよう、安全・安心な教育環境の充実に努める。長期を見通した、施設設備の維持管理と計画、公費と私費のより効果的な予算計画、執行による学校経営に取り組む。	B	生徒の健康、安全を第一に施設整備の見直しを行い、できる箇所から計画的に整備を行っている。公費と私費のより効果的な執行に努めることができた。	長年取り組めていない整備を含め、本年度に引き続き、長期を見通した予算計画、執行による積極的な学校経営に取り組む。
学習指導	家庭学習の充実	本校数値目標にも掲げられている一日平均1・2年生180分、3年生330分以上の主体的な家庭学習の習慣化を目指す。	B	家庭学習時間は、一日平均1年生は194分、2年生218分で、目標を達成できた。3年生は305分で、330分以上の目標を達成することはできなかった。	家庭学習の量を増やすだけでなく、質を高めるために、家庭学習の在り方を検討するとともに学習指導要領の改訂に伴った授業改善を行う。
	教科指導の充実	生徒の授業評価ポイント8.0以上を目指すとともに「えひめ教育の日」を中心に教員の相互授業参観や公開授業を充実させる。	A	「えひめ教育の日」や「えひめインタラクティブ学習フェスタ」等の機会を利用し、相互授業参観を積極的に実践した。 (生徒の授業評価ポイント9.0)	電子黒板の効果的な活用の研究を継続する。また新学習指導要領において言及されている「主体的・対話的な深い学び」を実践し、さらなる授業の質の向上を図る。
生徒指導	交通安全指導の充実	学校と保護者・地域の方々との連携を深め、安全通学への啓発活動を積極的に推進していくとともに、交通ルールの遵守とマナーアップの向上を図る。特に「自分の身は自分で守る」の教訓を生かし、年間の交通事故の件数を15件以下にするよう指導する。	B	通学マナーについての校外からの指摘は減少したが、交通事故の件数については、24件で目標を達成できなかった。その内の多くが交差点での接触事故である。事故処理は、適正にできていた。	交差点での事故を減らすために、一時停止や徐行など交通規則の順守を徹底させ、事故件数を15件以下に減らす。また、公共交通機関での乗車マナーの向上のための教育を行う。
	基本的生活習慣の確立	集団生活に必要な規範意識の高揚を図り、自律する能力を培い、基本的生活習慣をより一層自分に合ったものができるよう具体的な行動目標を設定し、実行させるよう指導していく。1か年皆勤率を60%以上とし、10分前行動の徹底を図る。	C	登校に関しては10分前登校を呼びかけたが、守れていない者がいる。また1か年皆勤率60%以上を達成することはできなかった。	開始5分前には教室に入室できるよう、生徒に呼びかける。「朝の読書」時には、全員が登校できているよう指導する。身だしなみについては、生活自律週間において、意識を高める指導を行う。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	東京大、京都大等の国立難関大学、国公立大学医学部医学科の合格者数80以上を目指す。現役生の合格者数では、国立難関10大学50名以上、国公立大学医学部医学科10名以上を目指す。	B	東京大の合格者数は1名、京都大の合格者数は6名であった。国立難関大学と自治医科大学を含めた国公立医学部医学科の合格者はそれぞれ56名と17名であり、難関大合格者は73名である。現役生の合格者数は国立難関10大学51名、国公立医学部医学科7名と健闘した。	二次力向上に向けて、基礎基本の定着を早期に図る。そのため、各学年における弱点教科、特に数学や理科の理系科目の改善を早期に行う。二次の学力を養うため、過去の入試問題の対策を行い、個に応じたきめ細やかな指導を行う。また、少々のスランプにも負けない精神力を育成し、基本的な生活習慣を確立する。コミュニケーション力の育成を図り、小論文対策を充実させる。目標を高く持たせて、学習する意欲や態度を醸成させる。
		早稲田、慶応、関関同立等、私立難関大学延べ合格者数250名以上を目指す。	C	早稲田7名、慶応3名、国際基督教1名、同志社30名、立命館69名、関西35名、関西学院29名であった。私立難関大延べ合格者数は204名で、目標達成率は82%である。早稲田、明治、同志社、立命館の合格者を減らしたことが、主な原因である。	私立難関大合格者は、国立難関大志望者でもある。目標の難関国公立大の合格に向けて、センター試験対策では各教科ともバランスのよい学習をさせること、二次試験対策においては国数英の各教科において、論理的思考力を身に付けさせるなど、受験教科を早くから絞らせないようにする。
		国公立大学合格者数250名以上を目指す。	B	国公立大合格者数は241名で、昨年より減少した。現役生が中堅大学で苦戦したこと、浪人生の人数減が主な原因である。	基本事項を正確に把握し、題意を正しく把握するための読解力を養うことなど、基礎・基本の定着に向けて指導を徹底し、岡山大・広島大等の中堅大学の受験者数・合格者数を増やす。センター試験と二次試験のバランスを考えた指導を心がける。
特別活動	ホームルーム活動の充実	主権者教育など新しい内容を研究し、さらに発展した活動が展開されるよう担任を援助するとともに、生徒の自発的・自治的活動を助長し、より良い人間関係を形成できるホームルームを確立する。	B	各ホームルーム担任の創意工夫とリーダーになった生徒のアイデアにより、本校の特長を生かした活動が概ね展開されている。また、この活動を通して、より良い人間関係を構築することができている。	道徳教育や人権教育など柱となるホームルーム活動をより充実させる。そのために人権教育課との連携をさらに深めていく。より計画的かつ系統的な活動が展開されるように学年主任や各ホームルーム担任を支援する。
	生徒会活動の充実	生徒会執行部の役割を明確にし、さらに自主的な活動ができるように支援していく。そのためにも特活課員との連携をさらに深めていく必要がある。また、生徒会委員会をより活性化し、より生徒が主体となった生徒会活動が展開されるよう支援していく。	A	生徒会役員と特活課員との連携がとれており、より風通しのよい実りある活動がなされている。それぞれの生徒会委員会の活動も生徒主体の活発な活動がなされている。	特活課員と生徒会執行部との連携をより密にし、より緊密な関係を構築する。生徒会委員会では、生徒が主体的に活動するよう促す。
	学校行事の充実	学校行事の特性や狙いを明確にし、本校ならではの伝統的な校風を継承・発展させる。また、集団の中でリーダーシップやフォロアーシップを発揮させるとともにマナーアップを図る。そのために生徒が学習活動や部活動とのバランスをとり、積極的に取り組めるような支援も行っていく。	B	天候不順や災害の影響により実施できなかった行事があるが、本校の伝統を引き継ぎながらも時代に即した学校行事を目指し、生徒会が積極的に活動している。	2年続けて実施できなかった学校行事の継承をしっかりと支援する。また、部活動とのバランスに留意し、学校行事に参加しやすい環境を整えるために、部顧問とも連携していく。
	部活動の充実	部活動を通じてより深い人間関係を構築させる中でより専門的な知識・技術および総合的な人間力を身に付けさせる。また、学習活動や学校行事との両立・バランスを考慮しながら顧問と生徒が一体となった質の高い文武両道が実践できるよう援助していく。県総体出場者数300人以上、四国大会15種目以上、全国大会10種目以上出場を達成する。	A	各部門たちのリーダーシップにより、生徒主体の充実した部活動が行われている。県総体出場者数は317名、四国大会17種目、全国大会14種目となり、数値目標を全て達成した。	本校伝統の「質の高い文武両道の実践」を継承していく。そのために顧問と生徒との意思疎通を深め、本校の「部活動における方針」をもとに「効率的な活動」を推進していく。また、総合的な人間力の育成に重点を置き、毎日の活動を充実させる。
保健・安全管理	健康教育の充実	生徒の健康状態を確実に把握し、事後措置を徹底する。生徒保健委員会活動を充実させ、クラスのリーダーとなる生徒を育成するとともに、全校生徒の健康に対する意識・関心を向上させる。	B	健康診断、保健調査、面談等を通し、生徒の健康状態の把握に努めた。生徒保健委員会については、年間を通して様々な活動に取り組ませたが、やや主体性に欠ける面も見られた。	生徒の健康状態については、校務系をできるだけ活用し、担任との連携を密にする。保健委員会活動においては、生徒が主体的に運営するよう促す。
		保健講話を開催し、健康に関する知識を向上させるとともに、自ら管理・改善していく実践力を身に付けさせる。	B	6月に本校卒業生である井門恵理子先生による保健講話を行った。事後アンケートで、ほとんどの保護者・生徒が役に立つ内容だったと回答しており、今後に生かしていける内容であった。	本校生徒の実情、本校生徒の抱える問題を把握した上で、より必要性の高い保健講話を実施する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
保健・安全管理	教育相談の充実	定例会並びに臨時の会において生徒の状況を協議し、学年団と協力して組織的に対応する。また、臨床心理士によるカウンセリングを計画的に実施し、面談内容を共有するとともに、アンケート調査を学期に1回実施し、生徒の悩みに対して早期対応を図る。	B	定例会を11回開催し、学年団と協力した組織的な取組ができた。また臨床心理士のカウンセリングを17回、延べ24人の生徒・保護者を実施することで、迅速かつ丁寧な対応ができた。さらに、年間3回のアンケートでは、24人の生徒への面談を実施した。	教育相談課、学年団、臨床心理士の連携を一層密にし、悩みを抱えた生徒・保護者への迅速かつ丁寧な対応に努めることで、問題の深刻化を防止するとともに、早期解決を目指す。また、登校支援対象生徒へのよりよい支援の在り方についても検討する。
		生徒が自己肯定感をもって、安心して学業や部活動等に取り組み、自己実現を図ることができるように、特別支援教育校内委員会や職員研修会等を通して、生徒について共通理解を図るとともに、生徒理解に関する知識や技術の習得に努める。	B	特別支援教育校内委員会を2回実施し、個別の教育支援計画、個別の指導計画に沿って2人の生徒の支援を行った。また、保護者連絡会を5回開催し、保護者の思いに寄り添った支援に努めた。さらに、特別支援教育に係る職員研修会を1回実施した。	特別支援教育校内委員会の機能を十分に発揮させることで、個々の生徒のニーズに対応する方法を検討するとともに、チームを組んで生徒の支援にあたる。また、専門家による研修会を通して、生徒理解の知識と実践力を高める。
	環境の整備と美化の推進	清掃活動を徹底し、校内美化に努める。また、美化委員会活動を中心に美化意識の高揚を図り、生徒が主体的に清掃活動に取り組むことを目指す。	B	放送部による清掃5分前のアナウンスにより、概ね清掃へのとりかかりが早かった。 (教職員の自己評価ポイント8.7)	美化委員会活動を強化し、自主的な校内の美化意識を高める。また、清掃監督の徹底について、さらなる協力を求める。
		施設の点検・整備を日常的に行う。また、職員・生徒共に徹底してごみの分別を行い、ごみの減量化に努める。	B	管理場所の施設、設備の安全への留意に関してはほぼできていた。しかし、ごみの減量化に関しては、さらに対策をとる必要がある。 (教職員の自己評価ポイント8.2)	施設設備や清掃用具に関して、こまめな点検を管理責任者に呼びかける。また絶えずごみの分別を呼びかけ、意識を高める。
		管理責任者を中心に、それぞれの担当場所の管理と環境整備を徹底する。	B	日々の清掃活動のおかげでほとんどの場所の環境整備がなされているが、若干、改善が必要な場所も見られる。	各管理責任者は適切な美化意識を持って担当場所の管理を徹底する。スリッパの整理についてはホームルーム活動や集会等での美化委員からの呼びかけを増やす。
	危機管理の徹底	危機管理マニュアル・防災避難訓練のあり方を随時見直し、発災時を想定した地域との連携を図り、安全な学習環境の構築と安全教育に努めて、災害・事件・事故発生時に迅速・的確に対応できるようにする。	A	危機管理マニュアルの見直し、備蓄品の入れ替え、危険個所のリストアップと補強、防災の日だより発行、また避難所開設に向けての地域との連携等、学校安全を推進することができた。	危機管理マニュアル、防災避難訓練の在り方を随時見直すとともに、教職員間で知識を共有できるしくみを作る。地域との連携を図り、防災意識の高揚と安全な学習環境の構築に努めて、災害、事件、事故発生時に迅速かつ的確に対応できるようにする。
人権教育	人権問題学習の充実	「部落差別の解消の推進に関する法律」の趣旨と内容を生徒・教職員に周知徹底させる。	B	「部落差別の解消の推進に関する法律」の趣旨と内容の周知徹底に努めた。 (生徒の自己評価ポイント8.1) (教職員の自己評価ポイント9.0)	引き続き「部落差別の解消の」推進に関する法律」の趣旨と内容の徹底を図る。さらに生徒の人権意識を高めるためにフィールドワーク等の活動を提供する。
	人権教育研修会の充実	新聞記事を中心に人権に関する資料作成に力を入れ、教職員に配布する。	B	生徒、教職員対象の「人権NEWS掲示板」は定期的に発行できた。	配布資料の回数も増やして質も充実する。各学年の人権推進委員より、本校における人権教育の取組と課題について報告し、さらなる人権教育の質の向上を図る。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
図書活動	読書指導の充実	「朝の読書」を継続して実施するとともに、図書委員による「読み聞かせ」をさらに充実させ、読書会を活発にする。	A	「朝の読書」の日常化が図れ、「読み聞かせ」も定着してきた。	「朝の読書」の一層の充実を図り、合わせて教職員にも「朝の読書」を広めていきたい。
		啓発活動を継続して行い、一人一か月2冊の読書を奨励し、学校全体で年間20,000冊以上の読書を実践する。	A	学校全体で年間22,412冊の読書を達成することができた。	継続して啓発活動を継続的に行うとともに、各種イベントへの参加も呼びかけていきたい。
	図書館活動の活性化	委員会活動を活発にし、毎月発行の「図書館だより」や年3回発行の「図書館報」の内容充実を図り、図書館活動を活性化させ、生徒・教職員の図書館利用を増やす。	B	委員会活動の充実により、積極的に図書館を利用する生徒が増えた。	教職員の図書館利用の啓発を活発に行いたい。
現職教育	校外研修の充実	他校への学校訪問と授業公開への参加を呼びかけ、積極的な参加を促す。さらにその報告会を実施することで、情報の共有を促す。	B	学校訪問に積極的に参加することを促し、授業改善に役立つ機会を多く設けた。さらに教科会で情報共有をした。	総合教育センター主催の講座別研修への参加を多くの教職員に促し、研修の機会を増やす。
	校内研修の充実	校内研究授業を各教科、原則として、年2回実施し、情報交換するよう呼びかける。相互授業参観週間を年2回実施し、1人4回以上の授業を参観する。	B	研究授業を各教科2回実施した。教育機器を利用した授業が数多く行われた。その後、さらなる授業改善について話し合うため教科会を実施した。	各教科において、新学習指導要領で言及されている「主体的・対話的で深い学び」を行うことに役立つ指導法の研究を行うよう促し、授業改善に努める。
PTA活動	PTA活動の充実	総務・文化・生活指導・保健厚生・進路指導の各委員会の活動が理事を中心に意欲的に行われており、今後は一般保護者が参加しやすい活動を模索する。今年度は創立140周年にあたり、活動の益々の活発化を図ることで、生徒にとってより良い教育環境を作ることを目指す。	A	各委員会とも年間を通して意欲的に活動が行われた。ほとんどの保護者がPTA活動へ高い理解をしていただいている。これも、役員を中心に充実した活動を実施していただいたおかげである。	来年度以降は140周年行事で構築したノウハウを生かし、今まで以上にPTA役員研修や文化祭での催しにおいて、本年度行った改善を更に検討し、より良い活動を展開していきたい。
		「ホームページ」「明教通信」「明教便り」によって、保護者に必要な情報を確実に伝えとともに、生徒の学校内外での活動状況をよりこまやかに伝え、本校保護者に加え、本校進学を考える子ども及び保護者にも、本校教育への興味を喚起する。	B	各媒体とも、定期的に更新または発行されており、保護者に生徒の活動状況を伝えることができている。特に「ホームページ」は毎日更新しており、日々の閲覧者も多い。SGHのページも充実している。	本年度実施した内容を継続する。特に「ホームページ」は多くの目に触れる媒体であるため、適切な発信内容を精査すると同時に、本校の魅力をより伝えることができるよう更なる内容の充実を図りたいと考えている。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。